

100 たけとみじま  
竹富島

(沖縄県竹富町)

注目ポイント！

- 生活の中で育まれた文化遺産を観光資源へ
- 日本の南西端でゆったりリズム



観光客数が約 86,000人から約 416,000人に！  
(平成元年) (平成17年)



竹富島の集落

◆◆ コラム ◆◆

古来からの先人の知恵と伝統を感じる赤瓦の家並み、聞こえてくる民謡や芸能。これらは島人の生活の積み重ねから生まれ、継承されてきたものである。NPO法人「たきどうん」では、多様化した現代の生活の中で失われつつある、これらの文化遺産を、次の世代へ継承するための研究と保全を行っている。



NPO法人たきどうん  
代表  
上勢頭 保氏

これまでの経緯

- 昭和62年(1987) 集落が重要伝統的建造物群保存地区に選定される。
- 平成 8年(1996) 竹富島のPRと全国的な啓発活動のため、全国竹富島文化協会を設立する。
- 平成14年(2002) 文化遺産の保存と継承のため、NPOたきどうんが発足する。  
1市2町で八重山ビクターズビューローを設置する。
- 平成15年(2003) 竹富東港の旅客待合所「てえどうん かりゆし館」が完成する。
- 平成17年(2005) 旧与那国家住宅の石垣等の施設整備を開始する。  
西棧橋・なごみの塔が国の登録有形文化財に登録される。  
「竹富島家並」が手づくり郷土賞(大賞部門)を受賞する。

### 旧与那国家の改修

竹富町の指定文化財である旧与那国家住宅の改修に合わせて、同住宅周囲の石垣や豚小屋付便所の修復を島民総動員で行った。これにより島民の自分たちの文化財の保存、維持管理への意識の向上が図られた。

この施設を活用した島の古老による生活体験プログラムを行っていくことで、若い世代の島民への文化の継承を図る。また、観光客にもこのプログラムに参加してもらうことで、竹富島の文化とその保存の大切さを理解してもらうことを目指している。



島民による石垣の修復

### 竹富島フィールドミュージアムのサポート施設

観光客に竹富島の島ならではの文化、生活習慣を体感してもらうとともに、旬の情報、島でのマナー等を提供する場として、竹富島ゆがふ館を中心とした6つの施設を、竹富島フィールドミュージアムのサポート施設として整備。

各館では観光ガイドによる解説の他、各種生活体験プログラムも実施。



ゆがふ館内での観光ガイドによる解説

### 竹富島型エコツアーの実施

島のおじいおばあさんと触れあい、時には歌や踊りが飛び出すなど、ユーモアあふれる貴重な話を聞くことができるツアー「素足で感じる竹富島」を実施。この交流を通して様々な歴史や文化の体験が可能。



エコツアー

### 伝統文化の継承

先祖から脈々と伝わる、竹富島独自の三味線や方言等の文化を来訪者との交流のひとつの材料とすることで、島の活性化につながると考えている。このため、各種講座等を設け、主に島の子供達への伝統文化の継承に努めている。



子供三味線講座

#### 問い合わせ先

○竹富町観光協会  
Tel : 0980-82-6445 <http://www.painusima.com/>  
ONPO法人たきどうん  
Tel : 0980-85-2488 <http://www.takidhun.org/>